

Movement Theory of Control in POP+ (発表言語:日本語)

作元裕也

1. はじめに

本発表は、Chomsky (2015)(POP+)における Labeling algorithm (LA)に照らすと、コントロール構文の PRO 分析は妥当ではないことを指摘し、Hornstein (1999, 2003)による移動分析 (Movement Theory of Control: MTC)を援用することにより、コントロール現象がうまく捉えられることを主張するものである。

2. PRO 分析の問題点

2.1 ラベルの問題

ここでは、ラベル付けの問題を指摘する。まず、(1)のように PRO (EA)と v^*P が併合する。Minimal Search の際、PRO と v^*P がどちらも XP 構造であるため、 γ のラベル付けするためには、PRO は移動する必要がある。しかし、従来のように β と併合すれば、今度は、 α のラベルが問題となる。そこで、 α は PRO と T の共有素性がラベルにならなければならない。また、Chomsky (2015: 9)によると、英語の T は弱く、ラベルになれないため、 β のラベルも PRO と T の素性 $\langle \phi, \phi \rangle$ によって強化されなければならない。そのために、英語のコントロール補文節の T は屈折がないのにもかかわらず、 ϕ 素性を持つという不自然な想定をしなければならなくなる。

(1) John tried PRO to ~~PRO~~ win the race \rightarrow [c C [α =?? PRO $[\phi]$ [β =?? T to [γ ~~PRO~~ [R - v^* R- v^* ...]]]]]

2.2 Phase の問題

近年、コントロール CP が phase を構成しないことは、多くの研究で実証されている (Grano and Lasnik (2018), Kanno (2008), Sakumoto (2020), Sugimoto (2016), Wurmbrand (2013))。Sakumoto (2020) では、POP+の unvalued feature が phase にとって必要であるという主張に基づき、C が phase を構成するためには、unvalued ϕ 素性が必要であると論じ、その存在の違いから、以下の文法性の違いを説明している。(2)は英語の *Wh* 島の例で、(2a)は不定詞補文を含んでおり、(2b)は定形補文を含んでいる。(2a)の不定詞補文は(2b)の定形補文とは異なり unvalued ϕ 素性を持っていないため、phase を構成せず、*Wh* 抜き取りが可能である (cf. Grano and Lasnik (2018), Kanno (2008))。

(2) a. What_i do you wonder [how_j PRO to repair t_i t_j]? (Manzini (1992: 51))

b. *What_i do you wonder [how_j Mary repaired t_i t_j]? (ibid.)

しかし、前述したように、PRO 分析は POP+の LA に照らした場合、埋め込み CP の C に unvalued ϕ 素性を想定しなければいけないため、(2a, b)ともに従属節が phase を構成すると誤って予測してしまい文法性の違いが説明できない。

3. 主張と分析

3.1 ラベルと phase

まず、PRO 分析で問題となったラベル付けは MTC を採用すれば問題は生じないことを示す。MTC では、 v^*P の外項に生じた DP *John* が主節の v^*P の外項に移動し、主節の TP 指定部まで移動する。この複数の移動に関しては、Hornstein (1999)では、 θ -feature のための移動と仮定していたが、POP+においては、自由併合 (Free Merge)が仮定されているため問題とならない。そのため、PRO を仮定する必要がない。従って、unvalued ϕ 素性の想定は必要なく、phase を構成しないと考えられるため、(2a, b)の対比もうまく捉えることができる。

3.2 MTC の問題点

理論的枠組みの違いから、MTC においても (i) θ -criterion、(ii) T のラベル、(iii) Sideward Movement という 3つの問題に直面する。そこで、本発表では、(i)は Jackendoff (1987)と Saito (2017a, b)、(ii)は Mizuguchi (2017)、(iii)は Sakumoto (2020)を応用して、Sideward Movement を

想定しない正規の移動で説明可能であり、これらは問題にならないことを示す。

3.2.1 θ -criterion

MTCでは、1つのDPが2つ以上の意味役割をもらうためChomsky (1981)による θ -criterionに違反するが、Jackendoff (1987)は、(3)において、a,bが示すように、XとZは2つの意味役割を持つとし、 θ -criterionの想定そのものに問題があると主張している。

(3) X buy Y from Z

- a. Y changes possession (from Z) to X
- b. money changes possession from X to Z

(Jackendoff (1987: 381))

また、Saito (2017a, b)は、 θ -criterionとLAの要求が重複していることを指摘している。(4a)では、2つの主題項が存在し、(4b)では、着点項が2つ存在している。しかし、 θ -criterionとは独立し、ラベルが決まらないことにより非文法的であることが説明できる。そのため、 θ -criterionは余剰的なstipulationであり、必要がないとSaito (2017a, b)は主張している。

(4) a. *Mary hit the head John

b. *Mary went to Germany (three times) to Europe

(Saito (2017b: 30))

3.2.2 ラベル

MTCでは、PROは存在せず、PROに代わるDP主語があり主節まで移動する。そのため、Tは強化されずとも、それ自体でラベル付けできる必要がある。またMizuguchi (2017)が指摘するように、これは不定詞一般に言えることである。Mizuguchi (2017)はraisingのtoのラベルの問題に加えて、Chomsky (2015)における、主要部の強弱の想定を根拠を否定し、代案として(5)を提案した。

(5) Heads can label only when they are without unvalued features.

(Mizuguchi (2017: 331))

この分析に従うと、従来コントロール補文とされてきたTは ϕ 素性を持たないと考えられるため、DPが主節に移動した後、ラベルになることができる(cf. Matsumoto (2019))。

3.2.3 Sideward Movement

Hornstein (1999, 2001, 2003)によるMTCでは、(6)のような付加詞コントロールを説明するためにNunes (1995, 2004)によるSideward Movementを採用している。

(6) John saw Mary after ~~John~~ eating lunch.

(Hornstein (2003: 30))

Hornstein (2001, 2003)は、Sideward MovementをEconomy あるいは Merge over Move を使って制限しているが、POP+では、自由併合が仮定されているため、その移動の制約が定式化できない。そのため、本発表ではSakumoto (2020)を応用し、Sideward Movementを用いず正規の移動で付加詞コントロールが派生可能であることを示す。Sakumoto (2020)は、付加詞の島をphaseの概念に基づくPICで説明可能であることを論じている。まず、付加詞はラベルには貢献しないが、Chomsky (2004)の想定とは異なり、付加詞だからといって内部が非可視的とはならない。付加詞のCP指定部にはHaegeman (2012)に従いTemporal Operatorがあるため、Wh島と同様に付加詞の島はPICによって説明できる。よって、(6)の付加詞は非定形節であるため、Cはphaseを構成せずPICの問題は生じず、Johnが主節に正規の移動をし、派生は収束する。

<主要参考文献>Chomsky, Noam (2015) "Problems of Projection: Extensions," *Structures, Strategies and Beyond: Studies in Honour of Adriana Belletti*, ed. by Elisa Di Domenico, Cornelia Hamann and Simona Matteini, 3-16, John Benjamins, Amsterdam. / Hornstein, Norbert (1999) "Movement and Control," *Linguistic Inquiry* 30, 69-96. / Hornstein, Norbert (2003) "On Control," *Minimalist Syntax*, ed. by Randall Hendrick, 6-81, Blackwell, Oxford. / Saito, Mamoru (2017a) "Labeling and Argument Doubling in Japanese," *Tsing Hua Journal of Chinese Studies* 47, 383-405. / Saito, Mamoru (2017b) "Notes on the Locality of Anaphor Binding and A-Movement." *English Linguistics* 34, 1-33. / Sakumoto, Yuya (2020) "What defines phases?" *The English Linguistic Society of Japan 13th International Spring Forum*.